

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 4月 7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社 陽春		
事業所名	グループホーム 陽春		
サービス種類			
所在地	大阪府枚方市東田宮一丁目16番3号		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年4月27日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号-102
訪問調査日	平成24年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>少人数なので、一人ひとりの健康状態や精神面での変化にも早く気づき 利用者と職員のコミュニケーションもうまくとれています。 職員も入れ替わりが殆どなく、利用者ともなじみの関係が確立しています。 食事も三食とも手作りで、料理の温度を大切に、家族同様の家庭料理を提供しています。庭先に次々に咲く花等を楽しみながら リビングでは笑い声がたえないホームです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>周囲に公園・商店がある住宅地の中にある家庭的な雰囲気が感じられるグループホームである。グループホームは恵まれた立地条件の中で地域に密着しており、散歩や買い物時に近隣の住民とあいさつを交わし交流を持つ他、自治会長の来訪もあり交流を深めている。さらに、地域のコミュニティーにも事業所から参加して役割を担うように取り組んでいる。開設以来職員の定着も良く、馴染みの関係の中で、利用者がのびのびとその人らしく過ごされている。玄関を施錠することなく利用者は近隣に自由に外出している。食事作りなどの一連の作業への参加が困難な状態になっているが、調理をする雰囲気や匂いなどを大切に考え、買い物から調理・後片付けまで手作りの食事を提供している。利用者の好みや咀嚼・嚥下等の状態に合わせて献立を立て、調理方法や提供方法を工夫して、食べることへの楽しみが持てるようにしている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示することにより、職員への周知はもちろん、外部の人へも公開している 入職時には理念について説明している	玄関に運営理念を掲示し職員や利用者・家族と共有できるようにしている。新入職員採用時は入職時研修で理念について理解できるように話をしている。職員の入れ代りがなく理念に基づいたケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけ近隣の人達と挨拶を交わしたり、ゴミの出し方等話している 自治会にも加入し回覧板の受け渡し等、日常的に交流している	散歩や買い物時に近隣の住民と挨拶を通して交流を持つ他、回覧版もまわってくる。自治会長の来訪もあり交流を持っている。事業所の近隣に住んでいた利用者が現在当事業所を利用しており、知人や友人の面会があり交流の継続を支援している。ことも110番など地域のコミュニティーにも事業所から参加して事業所から役割を担うように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生(ヘルパー2級)の受け入れは実施している 地域の人々にも、もっと積極的に話し合っていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している地域包括支援センター職員・自治会副会長・民生委員・家族代表の方が出席し、地域の催しの案内や利用者の近況等話し合っサービス向上につなげている 外部評価の公表も行っている	2カ月に1回地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表者に出席してもらい開催している。会議では、利用者の近況報告・事業所の取り組みや行事報告を行い、参加メンバーより意見や提案が出されサービスや運営に反映させるように取り組んでいる。地域包括支援センター職員や自治会より地域の行事や催しの情報提供を受け利用者と共に参加できる機会につなげるようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市主催の会合等は必ず出席し、市の担当者にも色々相談し助言を頂いている 介護相談員(1名)の受け入れも行っている 4ヶ月に1回地域包括支援センターが主催するグループホーム連絡会に参加し困難事例検討や情報交換を行っている	市の開催する説明会などには必ず参加し、助言や指導を受けるようにしている。また、毎月介護相談員の受け入れも行い、事業所の状況や利用者の状況を把握してもらい市への報告及び、利用者からの提言や提案を介護相談員から受けるようにしている。事業所の課題や問題があれば市に出向いて相談や助言を受け課題や問題を協働で解決できるように取り組んでいる。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の弊害を全職員が理解しており 玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアを実践している 身体拘束の中で「対応的拘束」について勉強会を行った</p>	<p>年間の研修計画に身体拘束についての内容を盛り込み、定期的に全職員で学ぶ機会を持つよう取り組んでいる。外部研修にも参加を行い理解を深めるよう取り組んでいる。身体的拘束だけでなく、言葉や精神的な拘束についても理解を深めるよう取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事務所内では虐待が見過ごされない様注意している 高齢者虐待防止関連法について勉強して、虐待防止に努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度について司法書士の先生を招いて当ホームで研修を行った(23年10月) 必要な人にはそれらを活用していきたい</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>新規契約の時には丁寧に説明し理解して頂いている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時には積極的に声かけ、話し合いを行い、意見や要望を聞き取るようにしている 外部評価時の家族のアンケートも参考にして、職員間で話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる 「ご意見箱」を玄関に設置している</p>	<p>家族来訪時には、家族に話しかけを行い、意見や要望を聞き取るようにしている。玄関に意見箱を設置し意見を聴取できるようにもしている。出された意見や提案は運営やサービスに反映させるように職員間で話し合いを行っている。家族来訪時には、日々の利用者の生活の状況や身体状況について説明を行い家族が利用者の状況を理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>来訪時の口頭での報告だけでなく、定期的に書面での利用者の生活の状況を理解してもらい意見や要望を言いやすいような配慮が望ましい。また、アンケートを外部評価時だけでなく、事業所独自にも行うなど意見や要望をより多く聴取する機会を持つような取り組みが望ましい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日頃から職員が意見や要望を言いやすい環境になっている 出された意見や要望等は、その都度話し合い、運営に反映させている</p>	<p>普段より職員から直接意見や提案が出されている。出された意見や提案は職員間で話し合いを行い運営やサービスに反映させるよう取り組んでいる。必要であればケア会議などでも話し合う機会を持つようもしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者も毎日現場に来ており勤務状況を把握しながら向上心を持って働けるよう心がけている</p>		

13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の為に休暇の要請には快く応じている 事業所内では介護技術の相互研修を行っている		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センター主催の交流会で地域の同業者と意見交換しながらサービスの向上を目指している 相互訪問も行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談で本人の心身の状態や困っている事をよく聴き安心を確保するための関係づくりに努めている 体験入所も行っている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談でこれまでの生活歴や病歴等詳しく聞き家族の願いや思いをくみとり、信頼関係を築くよう努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談でどのような支援が必要か話し合い、他のサービスの利用も含めた対応に努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員は利用者の不安や喜び等 暮らしの中で分かち合い支えあっている		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の様子や出来事をきめ細かく家族に伝え、本人と家族との絆を大切にしながら本人を支援している		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これ迄本人を支えてくれた馴染みの人や、孫、ひ孫も遊びに来て、他の利用者も一緒に楽しんでいる これからも交流が継続できるよう支援していく	これまで住んでいた先の馴染みの知人や友人に気軽に立ち寄ってもらい気持ちよく面会してもらえるように支援している。散歩や買い物時等挨拶を交わす関係が構築されており、利用開始後にできた馴染みの関係も継続できるように支援している。	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、すべての職員が把握し、調整役となって孤立しないよう気を配っている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は該当者はないが契約終了後も関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないようにしたい		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数なので、一人ひとりの思いや希望は充分把握出来ている「墓参りに行きたい」等、それぞれの思いを家族に伝え希望がかなえられる様支援している	認知症の進行に伴い、自らの思いや意向・希望を訴えることが難しくなる中で、普段の関わりやコミュニケーションで聞き取り、思いや意向・希望に沿った生活ができるように支援している。利用者自ら思いや意向・希望を訴えることが困難であっても利用開始後に培ってきた関係や表情・行動・態度で利用者の思いや意向・希望を利用者の立場に立ち考えるようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所時に、本人や家族、特にキーパーソンの方等から詳しく聴いている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解して、今何をしたいのか何が出来るのか、心身状態の把握に努めている	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や家族と話し合い意見交換しながら現状に即した介護計画を作成している6ヶ月に1回再アセスメント・モニタリングで見直しを行っている	利用開始前の面談で得られた情報を事業所独自のアセスメントシートでアセスメントを行い計画を作成している。2か月に1回ケア会議を開催し全利用者の状態の変化の有無を確認し6か月に1回モニタリングを実施、見直しを行っている。見直し時には、再アセスメントを行っている。計画作成時には、家族の意向や希望・要望も必ず聴取するようにし計画に反映させるようにしている。介護記録には、計画に沿って実施したケアや利用者の方の表情や言葉が記載されている。家族来訪時には、介護記録を見てもらい利用者の状態や状況を理解してもらえるようにしている。

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別のファイルに職員の気づきや本人の言葉等記録して情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入院時は職員が頻繁に病院を訪ね情報交換している 好みの服を買いに外出支援する等柔軟に対応している</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員も運営推進会議に出席して、協力しながら支援している</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>在宅医療で2週間に一度訪問診療を受けている 家族の要望で以前からのかかりつけ医にも受診している 受診には職員が同行し、情報提供を行っている</p>	<p>月に2回内科の往診医の来訪を受けている。利用者・家族の希望の医療機関へも受診できるように支援している。内科以外の受診でも職員が同行し普段の情報提供を同行職員から医療機関に行い適切な医療を受けることができるように支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>在宅医療で来てくれている看護師に電話で相談しながら日常の健康管理に務めている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には安心して過ごせるよう、病院関係者と情報交換したり、早期退院に向けソーシャルワーカーと相談している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成して、利用者・家族に説明している、家族・主治医と充分話し合い、全員で方針を共有して対応していく</p>	<p>重度化・看取りに対する事業所としての指針を作成し、家族に契約時より説明を行い同意を得るようにしている。利用者家族と主治医と十分に話し合いを繰り返し行い、職員と共に統一した方針で看取りを行っていくようにしている。</p>	

34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員の大半は応急手当の訓練を受けているが、すべての職員が定期的な受けというまでには至っていない 訓練を定期的に行いたい</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>安全計画を作成し、年2回避難消化訓練を行っている 各人の移動能力を確認して、いざという時の誘導方法を話し合っている 災害時を想定して非常食を備蓄している</p>	<p>消防署より水消火器の貸し出しを受け利用者・職員共に年2回の避難消火訓練を実施している。現在、火災通報システムの導入に向け取り組んでいる。避難消火訓練には、近隣住民の参加はないが、地域の防災訓練には事業所から参加し協働を図っている。運営推進会議でも災害時を想定した備蓄を行っていることや協力体制などが話題になっている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>日々の関わりの中で、言葉かけには全職員気を配っている 誇りを傷つけないように接して、自尊心の尊重に努めている</p>	<p>職員の入れ代りが少なく、利用者の尊厳やプライバシーの保持については、配慮するように努めている。入浴や排泄に関しても利用者の状態に合わせて安全性を保った上で尊厳やプライバシーが保持できるように検討し支援するようにしている。新入職の研修には、尊厳やプライバシー保持についての説明を行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>一人ひとりに合わせた話の仕方・説明を行っている 入浴やシャワー浴は本人が決めたり、自分で納得した暮らしを支援している</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の個々の状態を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にして、パズルや歌、家事の手伝い、散歩等、希望にそって支援している</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>整髪も資格のある職員が各人の好みに応じてカットしている 自室に化粧品を置いている人もある</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>それぞれの誕生日には赤飯で祝ったり季節感をとり入れた献立を心がけている 利用者の好みも考慮し、職員も一緒に食べながら見守りしている</p>	<p>以前は利用者に調理に参加してもらっていたが、認知症の進行やADLの低下により食事に関する一連の作業への参加が困難な状態になっており、調理をする雰囲気や匂いなどを大切に考え、買い物から調理・後片付けまで職員が実施している。利用者の好みや咀嚼・嚥下等の状態に合わせて献立を立て、調理方法や提供方法を工夫している。外食も困難な状態になってきており出前を取り食べることへの楽しみが持てるようにしている。おやつも手作りを行っている。職員も利用者と共にテーブルを囲んで、見守り・介助をしながら食べている。水分も1日1000mlを目標に摂取を勧めている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、把握している カロリーの過不足にも気を配っている</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨きの声かけや洗面所への誘導等それぞれの力量に応じた口腔ケアを行っている</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの力に応じてポータブルトイレを利用したり、尿失禁が多くなった利用者には、紙パンツを利用しながら様子をみてトイレ誘導も行っている</p>	<p>チェックリストで排泄のパターンを把握しており、一人ひとりの状態に応じた声かけや誘導を行うようにしている。ADLの低下によりトイレでの排泄が困難な方でも座って排泄することができるようにポータブルトイレを必要に応じて使用し気持ちよく排泄ができるように支援している。食事や水分の調整で排便が困難な方は、医師に相談し必要に応じて薬を使用しながら便秘にならないように注意している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>職員は、便秘の及ぼす影響を良く理解しているので出来るだけ運動することや水分を多く摂るよう全員で取り組んでいる</p>	/	/
45	17	<p>○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一応の入浴日は決めているが一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟に対応している 羞恥心へも配慮しつつ、安全の為に見守りして入浴を楽しむ支援をしている</p>	<p>入浴日は決めているが、利用者一人ひとりの体調や気分に応じて入浴ができるように支援している。入浴を嫌がる方でも日や時間を変え声かけ誘導を行い入浴してもらるように支援している。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している</p>	<p>なるべく日中は活動して夜間 は安眠出来るよう支援してい る</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や要領につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる</p>	<p>薬の説明書を個別にファイル して職員が内容を把握してい る 服薬時は見守り確認して いる</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている</p>	<p>それぞれの得意分野でお願い 出来るような事を頼んだり 散歩や歌等一緒に楽しんで いる</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるよう支援している</p>	<p>一人ひとりに合わせて近くで の散歩や、近所のコンビニ等 へ買物に行っている 外出が 難しい人は敷地内で外気に 触れ気分転換が出来るよう 支援している</p>	<p>ADLの低下により日常的な外 出が困難な状態になってきて いるが、玄関前の庭に出て外 気に当たる機会を持っている 。また、希望により個別に 買い物等の外出ができるよう にも支援している。季節に応 じて花見などに車で出かけて 気分転換やストレス発散、五 感刺激の機会を多く持つよう に取り組んでいる。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している</p>	<p>小遣い程度のお金は、それ ぞれ財布に持っていて、買 い物に行っても、自分で支払 うよう見守っている（現在は 買物できる人はひとりだけ）</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取 りができるように支援してい る</p>	<p>家族への電話は職員が段取 りして本人に出てもらってい る 孫からの手紙等は職員と 一緒に読んでいる</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）は、利用者にとって不快 や混乱をまねくような刺激（ 音、光、色、広さ、温度など） がないように配慮し、生活感 や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫を している</p>	<p>明るく広いリビングがあり 普通の家庭のように台所で洗 い物している様子や話し声 が聞こえる空間づくりになっ ている</p>	<p>利用者は家庭的な飾りつけ がなされた部屋の中央の テーブルを囲み、見慣れた物 や馴染みのある場所で楽し く過されている。キッチンか らは食事作りの風景が見ら れ、落ち着いて安心できる雰 囲気の共有空間となっている。</p>

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関横のスペースに小さなテーブルと椅子を置いたり、リビングの壁側にソファをおいて思い思いに過ごせるよう工夫している マッサージチェアも利用している</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に使い慣れたタンスやコタツ等持ち込んだり、家族の写真や置物を飾る等工夫している</p>	<p>利用者の思い思いの部屋作りが見られる。使い慣れたベットを持ち込んだり、布団を敷いて寝起きするなど、以前の暮らしをそのまま継続できるような環境を作り、利用者一人ひとりの希望や生活習慣に応じた居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室の入り口等に手すりを設けることで、安全で自立した生活が送れるよう工夫している</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない